

## 右瓦左瓦（山北第五回）

### ●瓦の葺き方

瓦の葺方には寺社など行われている本葺、安岡の家で行われている  
棧瓦葺があります。本葺は瓦と瓦の間（隙間）に丸瓦を葺きます。棧  
瓦葺では隣の瓦と重ねその隙間を塞ぎます。重ねるため（棧）と呼ば  
れる山を作り込まれています。その山の位置で右側・左側と呼び方を  
変えています。山の位置は軒先（文様のある）瓦でなければ、回転す  
れば同じ形になるのにも思っていました。が、棧の下に切込みがあり  
回転しても同じ形になりません。展示品を見て下さい。

### ●右と左瓦葺き分け

主屋居室部北面の屋根は右瓦、南面の屋根は左瓦としています。そ

の理由は南東からの風が強いので、瓦が吹き上げられないように棧を風下に出しています。この風以外に屋根端の棟付近の水の流れに合わせて葺き分けています。屋根面の葺き分けは他所でも見掛けました。

## ● 中央での右・左瓦葺き分け

現在、番屋の南屋根は中央で右左瓦葺き分けています。昭和二十年代の番屋はで葺き分けていません。同じように昭和中期では座敷の軒、米蔵の軒も中央で葺き分けていません。大川筋の武家屋敷は中央で右左瓦葺き分けています。が、家の昭和前期の写真を見ると中央の葺き分けはありませんが、昭和中期の軒先瓦に中央での右左葺き分けが見られます。番屋は昭和三十一年に移築していますので、その時中央で

右左葺き分け、譲り受けて再建でその時の葺き方に合わせて中央葺き分けていました。今回の重要文化財復原工事ではいずれの屋根も中央の葺き分けは行われていません。

瓦は下の土だけで留める施工でしたので、瓦の重さだけで風に耐える事になり、強風で瓦が飛ぶことがあったようです。いつ頃から不明ですが、瓦を横木に釘留め、または針金留め、瓦間の針金で連結しています。これらの措置で瓦が風で飛ぶことがなくなり、中央での右瓦左葺き分けのお洒落な印影を楽しむようになったと推定します。

中央の瓦葺き分で作業の効率が上がると言われていますが、今回の瓦葺き工事をみると、実際に屋根に瓦を葺きは次の手順で早いで

す。

### 瓦葺き手順

- ① 瓦高さ調整で少しの土を乗せる
- ② 瓦を乗せる
- ③ 銅線で瓦同志または横木に留める

実際に屋根に葺く前に、設計図に従い瓦を仮置きし、瓦位置を確認し瓦を切断し長さを調整します。これに手間が掛かっていたように思いました。このような瓦の長さの調整は昔あったのだろうか。瓦を切断する機器はないので叩き落とし調整するのだろうか、そのような瓦は見かけませんでした。

そこまで微妙な調整はしなかったのでしょうか。家を覆う仮設がない

ので、屋根工事は急がれたのでしよう。昔も今も、瓦の並び、縦線、横線、斜線美しいので、そこまで拘ることはないと思うのですが。

## ●塀の右・左瓦葺き分け

右左瓦の葺き分けは屋根だけでなく、安岡の塀の内側外側でも見かけられます。この葺き分けいつ頃から行われたのか、塀の両側を撮影した古写真がなく不明です。ご近所の古い塀にそのような葺き分けはないので安岡の家だけの形式で、漆喰塀を施工した又彦好みだったのでしょうか。又彦は漆喰の塀の外は黒、内側は白漆喰とされていますので、そのような指示をしたかも知れません。

## ●右左瓦はいつから「住吉陣屋の瓦」

安岡の家の解体で主屋など五棟に葺かれた右瓦、左瓦の数が文建協さんにより記録されています。合計一万二千七百九十五枚あり、左(正棧) 瓦約五十三%、右(逆棧) 四十一%、本(棧なし) 約5%となっています。安岡の家の広い屋根は南側と北側にありますので、右・左(逆・正) の比率が同率なのは東方向からの風の対策を行っていたのでしょうか。風対策で右・左の瓦が昔から作られていたと推測します。

幕府の命で、大坂住吉に陣家を作りました。規模は今回の修理復原した住宅地八百坪の約十四倍の一万七十九の建坪を五ヶ月間で完成！安岡の家と単純比較すると瓦は全部で約二十万枚となります。

世情の変化で住吉陣家は撤去され京都に移築し、土佐藩邸となり白川邸と呼ばれ、陸援隊の駐屯地にもなります。白川邸跡は現在、京都大

学の所有地調査が行われました、

住吉陣屋への資材は高知から運ばれました。発掘され瓦には高知特有の屋号が彫られ、その中に修復復原工事の解体で下した瓦と同じ屋号の瓦もありました。高知特有の右瓦、左瓦もあり、発掘の情報として「通常の棧瓦（右棧瓦）に対して、右側に袖をもつ左棧瓦が四割を超える比率で見つかっています。」とあります。職人も高知より連れて行き施工したとのことですが、どのように使い分けたのだろうか。もしかして中央の葺き分けを楽しんだかも知れません。

高知も瓦土が少なくなり、高知で焼く瓦は少なくなったそうです。右瓦・左瓦も特注しないとできない文化財になってきたようです。



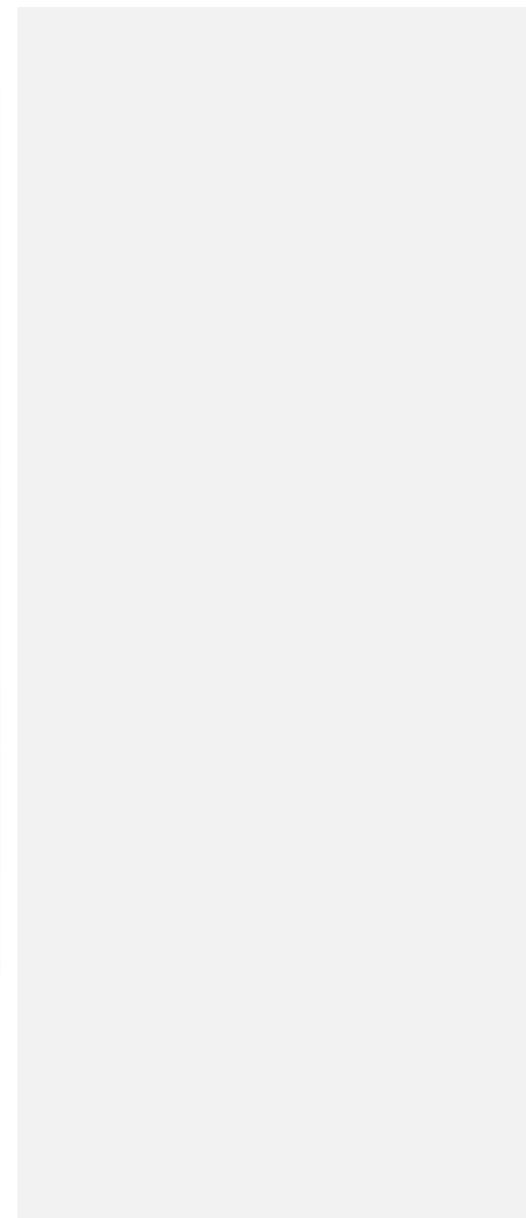
主屋居室部 北側屋根 右瓦 撮影 20130804

左は昭和に増築した便所の屋根は左瓦

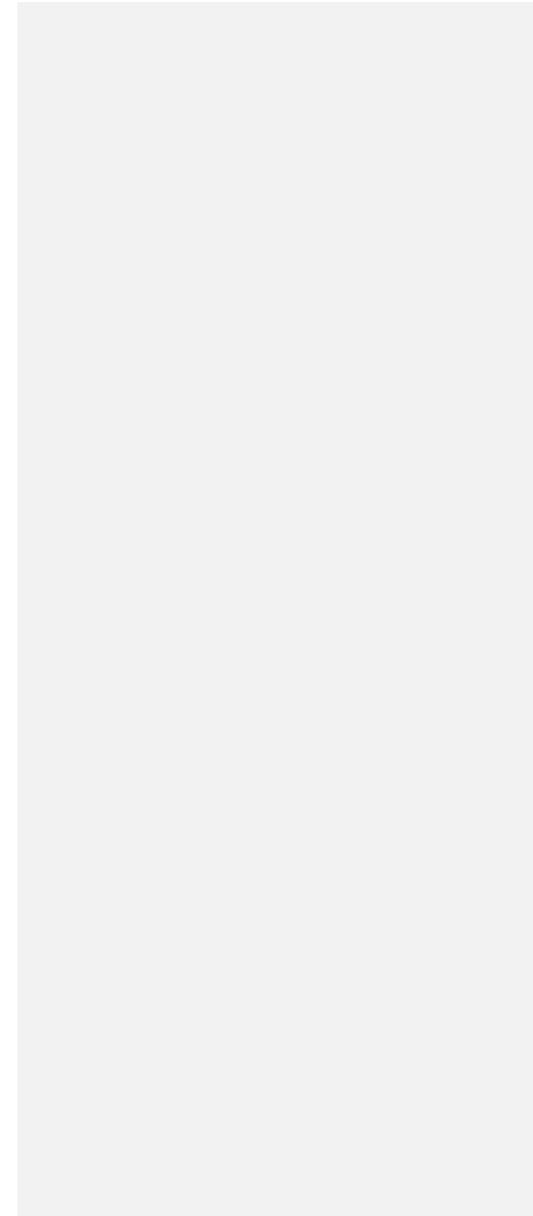
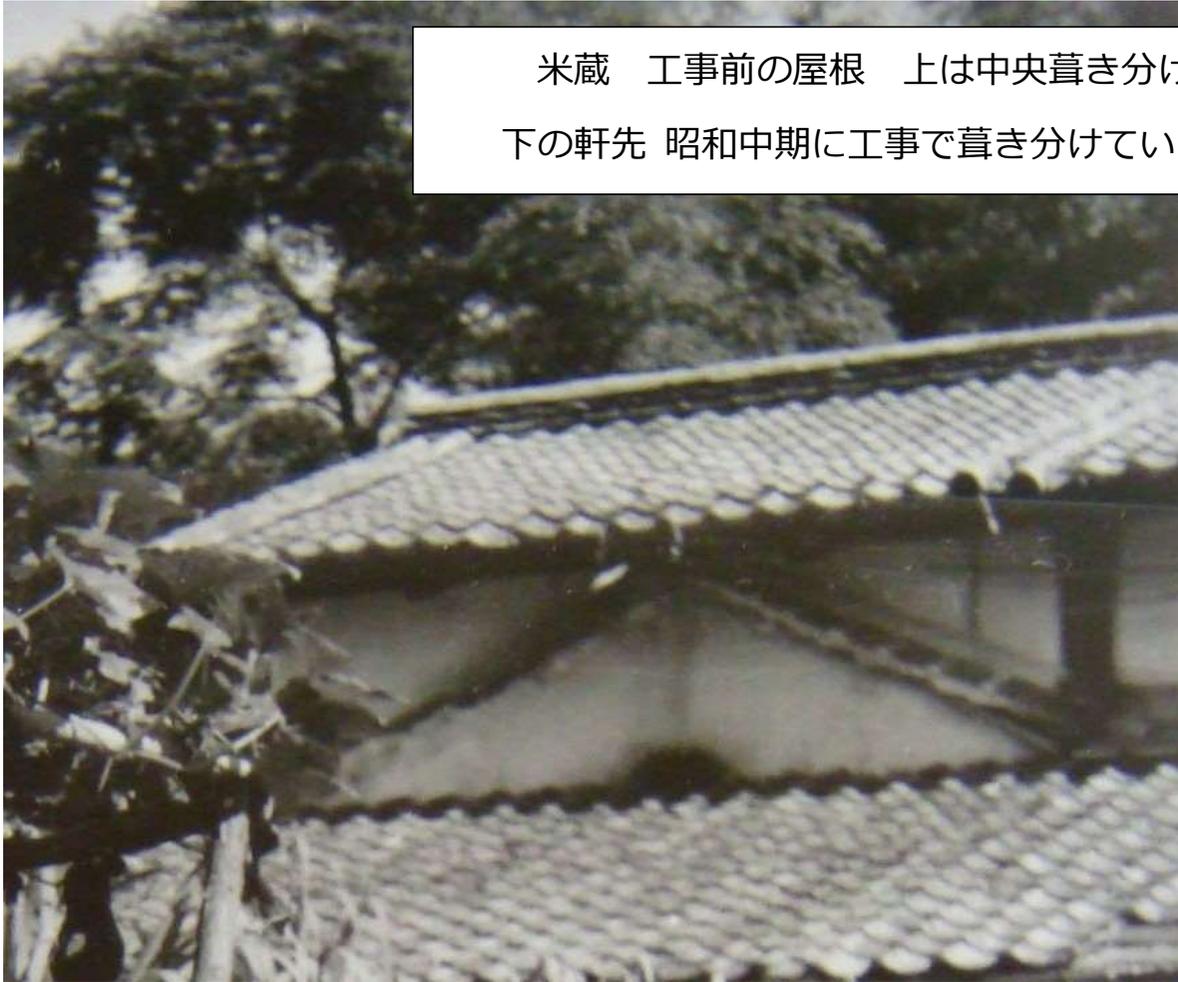
コメントの追加 [yb1]:

主屋座敷部 南側軒先屋根中央葺き分け無く左瓦

撮影 196102

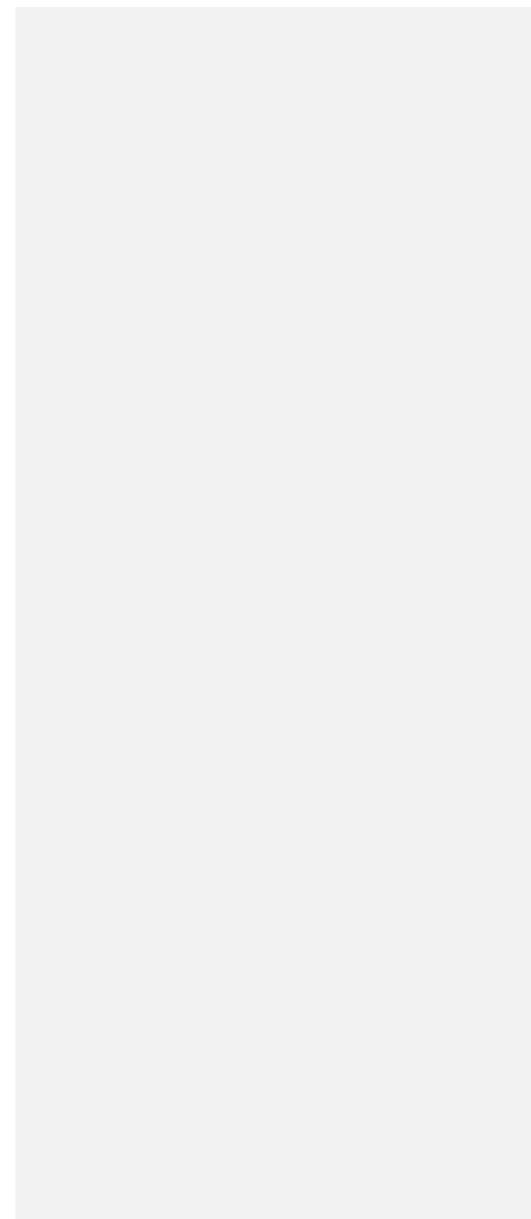


米蔵 工事前の屋根 上は中央葺き分け無し  
下の軒先 昭和中期に工事で葺き分けている。





ある家 上は北側屋根 左瓦 古い瓦で葺いている  
下は南側屋根 右瓦 新しい瓦で葺いている



番屋の中央の葺分で見られる印影

